

# 組立・日常点検 長くご使用いただくための ガイドブック

wimo 電動アシスト自転車



WIMO

<https://www.wimo.co.jp/>

## 組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。記載されていない方法や、指定部品以外での組み立てにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 工場より出荷された自転車は規格によって正確に組み立てられておりますが、輸送中の振動・衝撃によりゆるみが生じることが考えられます。本体各部の締め付け、タイヤの空気圧などを点検・調整の上、ご使用ください。
- 組み立て完了後、バッテリーを満充電してください。3か月以上の長期保存した時にも、満充電をしてください。組み立て完了の自転車は「取扱説明書」にある「点検・整備の記録」にて確認を行い、必ず実走によるブレーキテストを実施後ご使用ください。
- 鍵番号を必ず控えてください。紛失による鍵の再取得をするときに必ず必要になります。
- 製品保証を受けるため、必ず保証書とご購入したことが証明できる書類（領収書など）を保管してください。
- 防犯登録が義務化されているため、自転車販売店などで登録を行ってください。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。

ガイドブックはメンテナンス時にも参考になります。  
取扱説明書と一緒に保管することをおすすめします。

# 目次

## けがなどを防ぐために

けがなどを防ぐために .....	3
------------------	---

## 組立方法

ハンドルポストの固定・角度の調整 .....	4
ハンドルバーの固定・角度の調整 .....	6
フロントライトの角度の調整・ブレーキの確認 .....	7
サドル(シートポスト)の固定 .....	8
ペダルの取り付け .....	9
バッテリーの取り付け・外し方 .....	10
フロントバスケットの取り付け .....	11
リアキャリアの取り付け .....	13

## 日常点検

日常点検 .....	14
------------	----

## 長く使用するために

長く使用するために .....	15
-----------------	----

# けがなどを防ぐために

人への危害・財産の損害を防止するため、必ずお守りください。



## 【禁止】

この表示は、「安全上してはいけない危険行為および保証範囲外の行為を表す」内容です。



## 【必ず守る】

この表示は、「安全上必ずお守りいただき、実行していただく」内容です。



## 【注意】

この表示は、「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある」内容です。



禁止

### はめ合わせ限界標識が見えるまで上げない

シートポストが折れて転倒によるけがのおそれがあります。



必ず守る

### 注油禁止場所（ベルト、リム、ブレーキシューのゴム部など）に注油しない

シートポストが折れて転倒によるけがのおそれがあります。



必ず守る

### ハンドルバー固定部は必ずしっかり締め付けを行い、確実に固定する

ハンドルがぐらつき転倒によるけがのおそれがあります。



必ず守る

### 調整後は必ず点検する

シートポストが折れて転倒によるけがのおそれがあります。



必ず守る

### ロックナットは確実に締め付ける

ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれがあります。



必ず守る

### サドル上面を水平に組み付ける

サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれがあります。固定力不足によりガタつきが発生したり、転倒してけがをすることがあります。



必ず守る

### 折りたたみハンドルポストの展開時はレバーロックまで確実にかけ、しっかりと固定する

不意に折りたたみハンドルポストがたまたまれてしまう事による事故、転倒によるけがのおそれがあります。

# 組立方法

## ■ 1 ハンドルポストの固定・角度の調整 (2024年モデルの仕様)



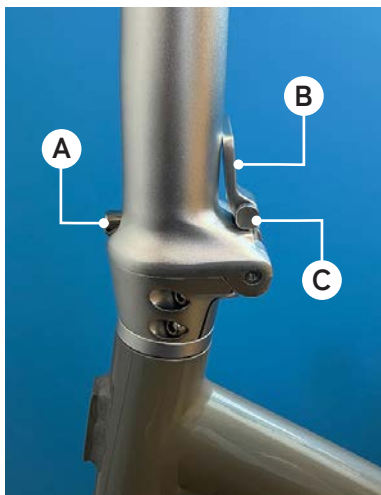
### 1-1 梱包時、折りたたまれているハンドルポストを展開する

左図のように左手で右ハンドルをもって展開していくとその後の動作がスムーズです。

### 1-2 折りたたみハンドルポストを完全に展開する

「カチッ」という音が鳴るまで、折りたたみハンドルポストを完全に立ち上げます。

「カチッ」という音が鳴らず、完全に展開しにくい場合は左下図 ① 1次ロックボタンを押しながらハンドルポストを立てることで完全に展開できます。



### 1-3 2次ロックのレバーを引き上げる

折りたたみハンドルポストが完全に展開されると、【1次ロック】がかかった状態になります。

次に ② 2次ロックレバーがカチッと音がするまで引き上げ切ってください。

ハンドルポストが完全に固定され、【2次ロック】がかかった状態になります。

折りたたむときは ② 2次ロックレバーの ③ レバーロックボタンを押しながら ② 2次ロックレバーを引き下げ、ハンドルポスト下部にある ① 1次ロックボタンを押しながらハンドルポストを折りたたんでください。



**【注意】** 折りたたむときは必ずハンドルポスト、もしくはハンドルを握りながら折りたたみを行ってください。突然たたまれてしまい、折りたたみ部分やハンドルなどでけがをすることがあります。

## ■ 1 ハンドルポストの固定・角度の調整 (2025年モデル以降の仕様)

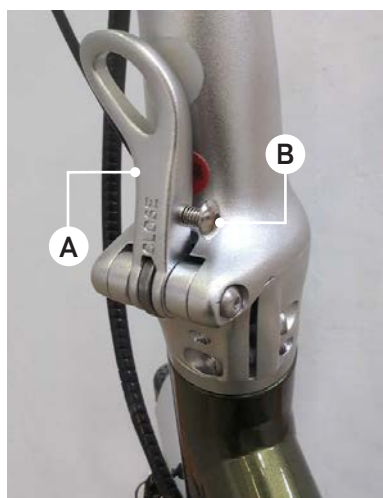


### 1-1 梱包時、折りたたまれているハンドルポストを展開する

左図のように左手で右ハンドルをもって展開していくとその後の動作がスムーズです。

### 1-2 折りたたみハンドルポストを完全に展開する (使用時)

折りたたみハンドルポストを「カチッ」と音がするまでしっかりと起こした後、**Ⓐ ロックレバー**を「カチッ」と音がするまで引き上げてください。その後、**Ⓐ ロックレバー**が確実に固定されていることを確認してください。



### 1-3 折りたたみハンドルポストを折りたたむ (収納時)

**Ⓐ ロックレバー** 右手にある **Ⓑ リリースボタン**を押しながら、**Ⓐ ロックレバー**を下ろし、ゆっくりとハンドルポストを折りたたんでください。



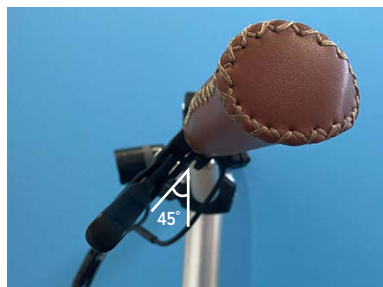
**【注意】** 折りたたむときは必ずハンドルポスト、もしくはハンドルを握りながら折りたたみを行ってください。突然たたまれてしまい、折りたたみ部分やハンドルなどでけがをするおそれがあります。

## ■ 1 ハンドルバーの固定・角度の調整



### 1-4 ハンドルバーの固定ネジを緩める

ハンドルバーの角度は初期状態だと梱包の関係で角度が立っている状態です。  
調整のため、同梱されている六角レンチを使ってハンドルを固定している前後のネジを緩めてください。



### 1-5 ハンドルバーの角度を調整

ハンドルバーの固定が緩んだら、横からハンドルバーを見てハンドルポストに対し、ブレーキレバーが「45度程度の角度」になるように調整してください。



### 1-6 ハンドルバーの固定ネジを締めて固定する

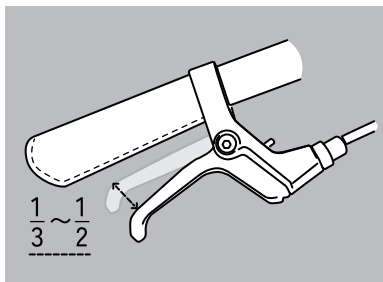
ハンドルバーの角度が決まったら、ハンドルバーの固定ネジを締めて固定して下さい。  
ネジを締めるときは、ハンドルバーの中心付近にある滑り止めのギザギザ部分がハンドルバーの固定部よりはみ出ないように注意し、ネジを前後均等に少しずつ締めていくように注意しながらしっかりと締めて固定して下さい。

## ■ 1 フロントライトの角度の調整・ブレーキの確認



### 1-7 フロントライトの角度を調整する

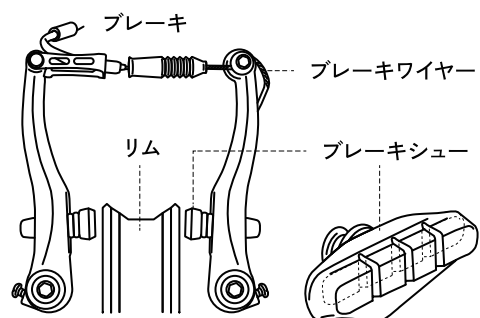
ハンドルバーが固定できたら、フロントライトの角度を確認し、お好みで任意の角度に調整してください。ライトが左図のように少し下に向くように調整すると、およそ適切な角度になります。



### 1-8 ブレーキの確認

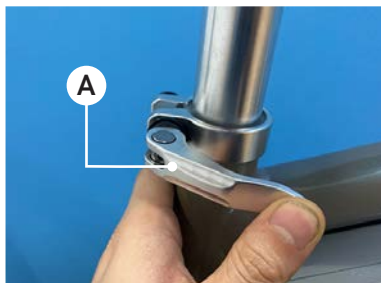
ハンドルバーを固定後、ブレーキレバーを握ってブレーキが効くことを確認してください。握りしろはレバー初期位置から1/2～1/3まで握ったときにブレーキがしっかりとかかることが目安です。

ブレーキを握ったときに、左下図に示したようにブレーキシューが左右均等にリムに当たるかどうか確認してください。



## ■ 2 サドル（シートポスト）の固定

---



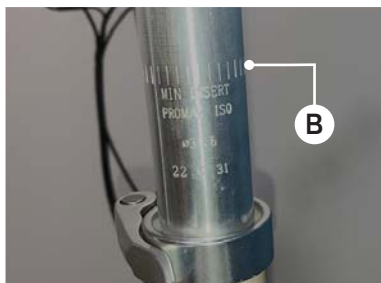
### 2-1 サドル高を合わせて、カムレバーを固定する

乗車姿勢でサドル高を合わせ、**Ⓐ**カムレバー（左図）をしっかりと固定して下さい。



**【注意】** 固定が弱いと乗車中にサドルが回ってしまったり、高さが変わってしまったりすることがあり、大変危険です。

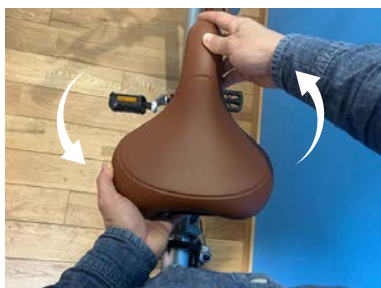
---



### 2-2 シートポストの引き上げについて

**Ⓑ**はめ合わせ限界標線（左図）が見えるまでシートポストを引き上げないでください。  
（シートポストが折れて、転倒によるけがのおそれがあります）

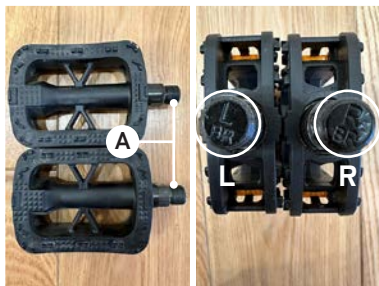
---



### 2-3 シートポストが固定されているか確認する

**Ⓐ**カムレバーで固定した後は、必ずフレームを両足で挟んでサドルの前後を持ち、強く左右に回して動かないか確認してください。

## ■ 3 ペダルの取り付け



### 3-1 左右ペダルの分別

左図④に示したペダルのシャフトの先端部に「L」と「R」の表記があります。それぞれ左ペダルと右ペダルを示します。



車体左側・左にねじ込む



車体右側・右にねじ込む

### 3-2 ペダルの取り付け方法

**ペダルは左右でねじ方向が異なり、**

左ペダルは左ねじで、左にねじ込むことで締まります。

右ペダルは右ねじで、右にねじ込むことで締まります。

締め始めは**必ず手で締め**、固くなってきたらスパナでめいっぱいまで締め付けてください。

左右が逆になるとネジが締まらず、破損の原因となりますので、十分注意してください。



**【注意】** 最初から工具で締め付けようとする斜めにねじ込んでしまい、ネジ穴が壊れてしまうおそれがあります。また締め付けが緩い場合、乗車中に外れてケガをすることがあり大変危険です。取り付け方法がわからない場合は無理して取り付けをせず、必ず近くの自転車販売店にご相談ください。

## ■ 4 バッテリーの取り付け・外し方



### 4-1 バッテリーを装着する

バッテリーにある電源スイッチ(左図Ⓐ)をOFF(○)にしてください。  
バッテリーをバッテリーボックスに差し込み、「カチッ」と音がするまで両手でしっかりと差し込んでください。



**【注意】** バッテリーの左側、右側(鍵穴がついている方)をおさえながら取り付けを行ってください。バッテリーがしっかりと奥まで差し込まれていない場合、バッテリーが落下するおそれがあります。バッテリーを閉めたあと、必ず確認を行ってください。



動画はこちら



### 4-2 バッテリーを外す

バッテリーを外すときは、鍵を回しながらバッテリー下部の持ち手部分をつかみ、バッテリーを少し引き出したうえで、両手で引き抜いてください  
バッテリーを引き出すときは、少し下方向に力を掛けながら引き出すとスムーズに外れます。



**【注意】** バッテリーの取り外し時、バッテリーの電源がOFFになっていることを確認して外してください。  
電源が入ったままバッテリーを外すと漏電や、バッテリーの劣化を起こすおそれがあります。  
バッテリーの落下を防止するため、取り外す際に、必ず両手で操作してください。

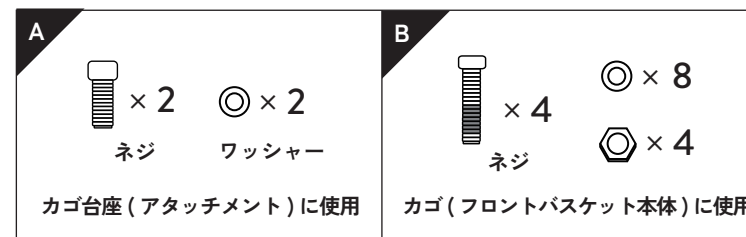


## ■ 5 フロントバスケットの取り付け ※フロントバスケットは自転車本体と別売りのオプションです。



### 5-1 付属品を確認する

カゴ(フロントバスケット本体)、カゴ台座(アタッチメント)、付属品ツール(ネジ、ナット、ワッシャー、六角レンチ2種、スパナ1種)が揃っているか、取り付け前に必ず確認をしてください。



### 5-2 自転車本体のロゴプレートを外す

はじめに、自転車本体のロゴプレートを取り外します。取り外すと、フロントバスケット取り付け専用のネジの固定部が表に見えるようになります。

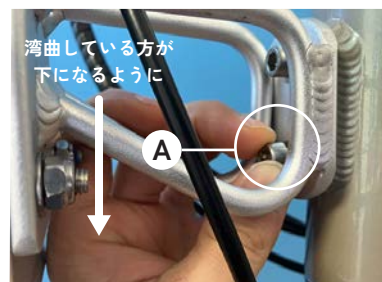


### 5-3 カゴ台座を車体に取り付けする

カゴ台座(アタッチメント)を自転車本体に取り付けします。

車体に取り付けるとき、ケーブルに無理がかからないように、左図のように**前ブレーキワイヤー**と**後ろブレーキワイヤー他ケーブル束**のあいだから取り付けられるように調整してください。

取り付けの際には、カゴ台座を側面から見て湾曲している方(左下図を参照)が下に来るようにネジの固定部に取り付けを行ってください。ねじの取り付けの順番は次のページの通りです。



※こちらのイメージはカゴ(フロントバスケット本体)を取り付けた状態です。



**【注意】** ブレーキワイヤーが片方に寄った状態で取り付けてしまうと、ブレーキワイヤーが引っ張られた状態となり、正常にブレーキが作動しなくなるおそれがあり大変危険です。

A

## ■ 5 フロントバスケットの取り付け ※フロントバスケットは自転車本体と別売りのオプションです。



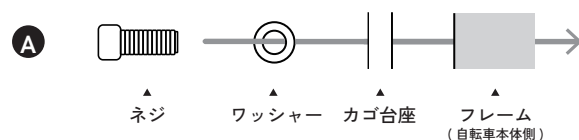
※こちらのイメージは取り付け方がわかりやすいよう、車体から取り外した状態です。



フロントバスケット・リアキャリア装着時

### 5-3 カゴ台座を車体に取り付ける

ネジを固定する際は最初から工具を使用するのではなく、手で軽くネジを締めこんでから工具で締め付けるようにすると取り付けがスムーズです。



フレームへのネジの固定は、カゴ台座のあいだから「ネジ」→「ワッシャー」→「カゴ台座」→「フレーム」の順番で取り付け、2か所を締め付け、固定してください。

### 5-4 カゴ台座にカゴ(フロントバスケット本体)を取り付ける



ネジの取り付けの順番は「ネジ」→「ワッシャー」→「カゴ(フロントバスケット本体)」→「カゴ台座」→「ワッシャー」→「ナット」の順番で取り付け、4か所を締め付け、固定して下さい。



【注意】 4か所ネジを取り付けるときは、軽く4か所の取り付けを完了させてからネジを締め付けるようにしてください。最初から1か所ずつ締め付けていってしまうと、穴位置がずれて組み付けが出来なくなるおそれがあります。



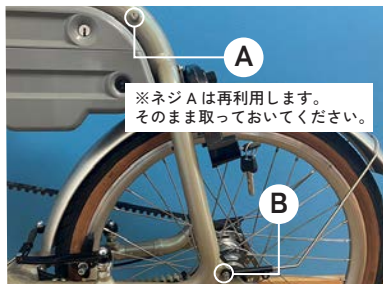
【注意】 ネジを1か所ずつ固定してしまうとネジ位置が合わなくなってしまうおそれがあるため、必ず2か所ネジを通してから締め付けを行って下さい。また、「フロントバスケット」の耐荷重は5kgまでです。



【注意】 取付による部品破損、故障に関しましては保証対象外になりますので、慎重に作業する必要があります。取付方法がわからない場合は無理して取り付けをせず、お近くの自転車販売店にご相談下さい。

## 6 リアキャリアの取り付け

※リアキャリアは自転車本体と別売りのオプションです。



### 6-1 自転車本体のフレーム・泥除けのネジを外す

リアキャリアを取り付けるために、**①自転車本体のフレーム**についているネジと**②泥除けを固定しているネジ**を左右外します。ネジ**①**はリアキャリア取り付け時に再利用しますので、なくさないようご注意ください。



#### 付属品

- リアキャリア本体×1
- ネジ×2 ● ワッシャー×2
- 六角レンチ×1



### 6-2 リアキャリアをフレームに装着する(上)

先ほど外したネジ**①**とリアキャリアのネジ穴が重なるように調整しながら、ネジ**①**を用いてリアキャリア上部を取り付けてください。

### 6-3 リアキャリアをフレームに装着する(下)



リアキャリアの泥除けの固定部付近の固定順は外側から「**ネジ**」→「**ワッシャー**」→「**リアキャリア**」→「**泥除け固定部**」→「**フレーム**」の順番で取り付けてください。固定のネジはリアキャリアに同梱されているネジと差し替えて固定してください。



**【注意】** 4か所ねじを取り付ける際は仮で4か所取り付けが完了してからネジを締め付けるようにしてください。1か所ずつ締め付けていってしまうと穴位置がずれて組み付けが出来なくなるおそれがあります。



**【注意】** 取り付けによる部品破損、故障については**保証対象外**になりますので、慎重に作業する必要があります。取付方法がわからない場合は無理して取り付けをせず、お近くの自転車販売店にご相談ください。



# 日常点検

安全に自転車をご使用いただくため、定期的に点検をお願いします。

自転車をご使用に伴い、ネジ部の緩みやパーツの老朽、異常などが出てきます。早めに問題を発見すれば、危険を予防することができ、自転車のロングライフにも繋がります。異常がありましたら、速やかにメンテナンスを実施するか、またはお店にご相談してください。



ブレーキを握ったとき、1/3まで握りこむまでにブレーキが良く効くか？



ハンドルがたつきはないか？グリップに緩みはないか？



ディスプレイにひび割れはないか？電源を入れたとき、表示は正常か？



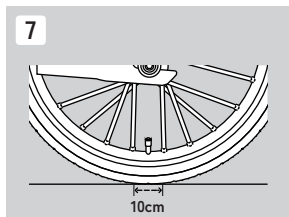
固定に緩み、がたつきはないか？限界標識より上げていないか？サドル回ったり、抜けたりしないか？



2次ロックレバーが掛かっている状態で取りたみ部にかたつきがないか？



滑らかに動くか？ひび割れや緩みはないか？



タイヤの空気圧は適正か？タイヤは摩耗していないか？スポークに曲がり、切れ、緩みはないか？リムは変形していないか？



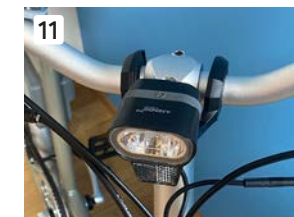
ケースにひび割れやがたつきはないか？バッテリーはしっかりと装着できるか？



バッテリー及び充電器に落下や衝撃などによる損傷はないか？充電はできているか？



ブレーキワイヤにサビ、切れはないか？ブレーキシューが1mm以上あるか？



ブレーキワイヤー、シフトワイヤー、スイッチハーネスなど配線が外れたり切れたりしていないか？フロントライトは正常に点灯するか？

12 フレームやフォークに、変形、亀裂、膨れなどはないか？自転車を10cmほど持ち上げて軽く落とし、異音はないか？アシストは正常か？発進時、通常発生しない異音、煙や異臭はないか？

# 長く使用するために

より長く安全に使用していただくため、簡単なメンテナンスや使用のコツをご紹介します。  
より専門的なメンテナンスについては販売店にご相談してください。

## 1 サドルの長持ち

車体を持ち上げる時、サドルではなく、サドルの下にある持ち手を使いましょう。

## 2 パンク予防

月に1、2回はタイヤに空気を入れましょう。  
自転車にまたがって体重をかけたときに、地面とタイヤの接地面が約10cm程度になるくらいの空気圧が目安となります。

## 3 ブレーキの確認

ブレーキシューアが1mm以上あるか、ブレーキレバーを握り切った時に左右が等しくリムに当たるかを確認しましょう。



ブレーキは命に係わる重要な部品です。調整方法が分からない場合は絶対に無理に触らず、近くの自転車販売店に相談してください。

## 4 本体の拭き掃除

「砂ぼこり」や「泥はね」などがありましたら、柔らかいクロスで拭き取りましょう。

## 5 ベルトのクリーニング

クロスで拭いて掃除しましょう。



注油は禁止です



## 6 ワイヤーへの注油

ブレーキレバーの横の隙間からスプレーし、何度か握ってなじませましょう。

## 7 防水防塵機能の維持

バッテリーボックスに異物がないか、水が入っているか確認した上でバッテリーを取り付けましょう。



## 8 バッテリー劣化防止

電池が完全に切れる前に充電しましょう。長期使用しない場合は3ヶ月に一度に充電しましょう。



## 9 かぎの動き

かぎの動きが鈍くなったら、動作部に自転車油を注油しましょう。



wimo 株式会社

〒108-0014

東京都港区芝4丁目5番10号 ACN田町ビル4階

© wimo Co., Ltd. 2020